



森のなごま

2018年12月号

NO.128 (継続273号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 Tel.046-297-0301・Fax046-297-0302

“2018.かわさき市民祭 街頭キャンペーン”

日時：11月2日(金)、11月3日(祝・土)、11月4日(日) 10:00~16:30(開催時間)

場所：川崎市・川崎区富士見公園一帯 (私達の場所は川崎競輪場西スタンド2F)



< 統括インストラクター 副理事長 森本 正信 5期 >

(写真撮影:星野澄佳⑬、松本保⑩)

川崎市での最大のお祭りである「かわさき市民祭」に今年も出店し、恒例の「かながわ水源の森林づくり」を展開。昨年同様、クラフト参加者から参加費@100円をいただき、全額を緑の(羽根)募金に充てることも継続。開催場所が天候リスクのない屋内で、安心・安全な良いキャンペーンとなった。

参加者： 11/2：104名 (大人92名、子ども12名)

11/3：233名 (大人118名、子ども115名) ⇒ 計 579名

11/4：242名 (大人122名、子ども120名)

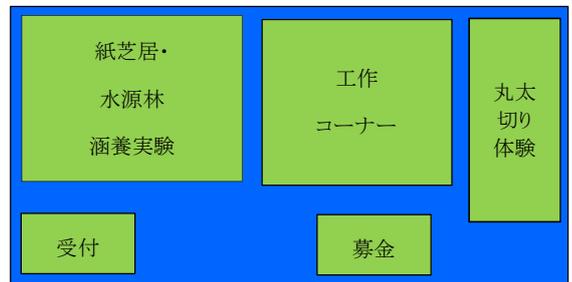
キャンペーン実施内容

- (1)リーフレット配布等による「水源の森林づくり」の広報
- (2)トラスト会員勧誘および普及啓発活動
- (3)「紙芝居(水は森林からやってくる)」、「クイズ」、「水源涵養機能実験」等より、「森林の働き」を通じて、「水源の森林づくり」事業の理解を図る。
- (4)木工教室(ドングリ工作等)
- (5)間伐材丸太切り体験

私達の会場のあるおまつり広場



私達の会場の Layout



開場前全景

受付・募金



紙芝居と水源林涵養実験



お話を聞いた人には手作りグッズプレゼント



木工工作(ドングリクラフト等)



丸太切り体験



使用した様々な木の実に

- ムクロシ 無患児
- マテバノイ 全手業椎
- クヌギ 樺
- メタセコイヤ 曙杉
- マシヤウシ 夜叉五倍子
- コウヨウザン 広葉杉
- マツカサ 松傘
- モミジバフウ 紅葉久楓

森林部会 平成30年度 「間伐研修会②」

日時：10月31日（水）9：30～15：00 天候：晴・曇

場所：湯河原町鍛冶屋 日本触媒・万葉の森

1. 研修の狙い <記:飯澤 恒 ⑨>

今回は参加者を、15期生を中心に間伐の基本的な流れを習得して頂くグループA、更に技術力を上げて頂くグループBに分けて研修を行う事にした。

グループA:選木から後処理まで間伐の基本的な流れを体験して独りで出来るようにする。

伐倒方向の決め方、ロープ掛け、スリングベルト掛け、枝払い、玉切り、各段階での安全確認等一通りの基本的な流れを全員が体験する。

グループB:容易に掛かり木処理が出来る伐倒方向を決め正確に狙ったところに倒せるようにする。

受け口を正確に作る事(水平度、目標直角方向)、ツルの厚さを均等に残す事等伐倒目標に対して結果はどうであったかをツルを見ながら評価を行う。また掛かり木になった場合の外し方について幾通りかの体験をする。

2. 研修に参加して

1)グループA <記:古舘 信生 ⑬>

グループAの研修目的は、選木の仕方、伐倒方向の決め方、ロープ掛け、スリングベルトのかけ方、正確な受け口・追い口の作り方、枝払い・玉切りの基本を学ぶことである。グループAには15期生を中心として基本を学びたい(見直したい)メンバーが参加した。

選木の後、棒でロープ掛け、スリングベルトをねじれないように近傍の木に二重廻しで巻き付け準備をして、いよいよ受け口を作る番である。倒す方向を確認してチョークで印をつけ慎重に切り始めた。A-1班が実施した3本とも斜め切りもうまく行き比較的受け口は良く出来た。次に追い口を切った。基本通り笛を吹き、ロープで引き倒しにかかったが36年生の密集したヒノキ林では3本とも掛かり木となってしまった。1本はロープの引きで外れツルもきれいに残り完璧の出来だったが、残りの2本は掛かり木が外れず、フェリングレバー技術を駆使することになった。ここでは講師の実践に頼ってしまったが、最後まで責任を持つ心構えも学ぶことが出来た。今回は基本を学び直す有意義な研修であった。

<グループA研修風景>



スリング掛け



伐倒後の検証



ロープ掛け



掛かり木外し

<A-1>

<A-2>

2)グループB <記:焼尾 徹 ⑬>

今回の研修会におけるグループBでは、インストラクターの手順確認ではなく、間伐技術の向上を目的とした内容とした。受講者一人につき、1本の間伐を行うものとし、受け口を正確に作る事、しっかりとツルが残る追い口の高さの確保、ツルの厚さを均等に残すことを丁寧にやり、伐倒目標に対して、伐倒木がどの程度の距離に着地したかの評価を行なった。

県民参加の森林づくりではロープ掛けの棒を使うが、今回は、スローラインを使ったロープ掛けにトライした。重りのついたスローラインを枝に引っ掛ける必要があるが、少々のコツが必要で回数をこなす必要があると感じた。受け口づくり、追い口づくり、つる残しを十分に時間をかけて行い、実際にノコギリを持って角度を確認することと、いい立ち位置で確認するのでは見え方が異なることを実感し、また自分のノコギリの傾きのクセを把握することができた。伐倒目標場所を決め、実際に伐倒木が着地した場所との距離を計測し、狙った方向通りに倒すことができるか、倒している途中における周りの枝の影響でどれだけずれるか、などの感覚を習得した。また、かかり木になった場合に、プルージックや滑車(カラビナで代用)を利用した3倍力を得る手法を学ぶことができた。

<グループB研修風景>



研修開始



後処理



伐倒方向確認



会合線の調整

<B-1>

<B-2>

<グループBで使用した評価グッズ等>



10m先の伐倒目標



伐倒方向の確認



目標とのズレ



受け口の水平度測定

3. 研修を終えて <記:滝澤 洋子 ⑤>

間伐研修会①が雨天中止となったため、今回は目的を二つのグループに分けて実施とした。単に伐倒するだけでなく、どちらのグループも基本に則り一つ一つ確認しながら実施したことで、参加者には充実した1日になったと思う。受け口と追い口をしっかり作ることが大事なことを再確認してもらえた。

今回は水平を確認するために水準器も利用したが、これは本来使わずに間伐されることが望ましく、水準器が必須でないことを念のため記しておく。

インストラクターとして間伐の指導をするには、自ら間伐できることが欠かせず、今後も研修会だけでなくいろいろな機会を利用してレベルアップを図って頂きたい。

グループA

講師: 石川裕一⑫、木村勇⑭

受講者: 上宮田幸恵⑪、北村貢⑬、古舘信生⑬、石垣桃江⑮、塚野久美子⑮、大高弘士⑮、妙泉正隆⑮、飛田尚弥⑮

グループB

講師: 松永廣⑩、岩田典義⑭

受講者: 佐藤恭平①、宮下修一⑩、江上徹⑬、星野澄佳⑬、焼尾徹⑬、小松立史⑭、埴原芳文⑮、

スタッフ:

滝澤洋子⑤、辻村寿⑨、飯澤恒⑨

[写真撮影: 飯澤恒⑨]

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

第27回 仲間に危険を知らせる植物

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

前項で木は話をするということをご紹介しましたが、次のような例もあります。

シトカヤナギ (*Salix sitchensis*) という沼地や川岸などの湿った場所で生育するヤナギで興味ある結果が得られています。春先に木の枝に白い幕が張られその中に毛虫がたくさん群れを成しているのを見かけますが、これはテンマクケムシの名で呼ばれているオビカレハという蛾の幼虫です。この天幕の先の枝を見ると葉が無残に食い荒らされているのがわかります。実はこの毛虫に摂食された葉で毛虫を飼育すると、健全な葉で飼育したものよりも成長が遅れるのです。害を受けた葉にタンニンが生成、蓄積し、それが成長を遅らせたのだらうと推測されています。タンニンは摂食阻害物質であるだけでなく、タンパク質と結合して消化を妨げるので毛虫の成長が遅れるのです。



シトカヤナギ

これだけならばタンニンの摂食阻害で片付けられますが、さらに興味あることは摂食された木の近くに生育している木の葉では毛虫の生育が遅れるのに遠く離れた木の葉では正常に

成長するのです。このことは害を受けた木から何らかの信号が近くの木に出され、近くの木が虫の襲来に備えてあらかじめ阻害物質のタンニンを製造したものを考えられます。「備えあれば憂いなし」といったところでしょうか。おそらくその信号は大気中を飛んでいく揮発性物質なのです。気体で軽い揮発性物質は、空気の流れによって方向が変わるでしょうし、拡散し濃度も低くなります。ですからその物質は遠くにある木までは届いていないのです。

イギリスの科学者によって発表されている次のような例もあります。

アスペルギルス・フラブスという植物病原菌に感染した綿の葉はその菌に対して対抗できる抗菌性物質を作りだします。アスペルギルス・フルブスという菌は熱帯から亜熱帯に生息するカビですがこのカビはアフラトキシンというカビ毒を生成します。アフラトキシンを作るカビとして初めて発見されたことでアスペルギルス・フラブス (*Aspergillus flavus*) の一部を取ってそれに毒を意味するトキシンをつけてアフラトキシンという合成語が作られています。アフラトキシンは肝ガンの原因物質としても知られており、輸入食品にも含まれてることがあるので厳しくチェックされています。

また、この事例にあるように病原菌に感染した植物が感染後に病原菌の繁殖を防ぐために急遽作りだす抗菌性物質をファイトアレキシンと言います。ファイトアレキシンはいわば泥縄的な対応ですが、これも植物が生き残るための自己防衛策なのです。

ところで、話を元に戻しますと、病原菌に感染した葉の空気を健全な葉に送ると健全葉でも感染葉で作られたと同じ抗菌性物質を作りだしたのです。感染した葉が作りだしたにおい成分で健全葉が反応したのです。言い換えれば感染葉からの情報を健全葉がキャッチして病原菌に対してあらかじめの対応を始めたこととなります。

地球上にヒトが生まれてこの方、常にヒトの身近にあり恵みを与えてきてくれた植物で、よく知っているつもりですが、まだまだ私たちは植物の生態についてわからないことが多く、特に植物同士がコミュニケーションをするというような植物の行動をよく把握していませんし、これから明らかにされていくものも多いことでしょう。木が仲間同士で話をすることを考えると、近い将来、私たちが木と話をする日が訪れるかもしれません。

(イラスト 広報部 加藤 優美 ⑤)

活動短信

今回の掲載は9/8～10/9です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。



フリーラスト
より



草露白 9/7～9/11頃
そうしるし
草の露が白く光る 塾
第四十三候 白露 初侯

鴻雁来 10/8～10/12頃
がんきたる
雁が飛来し始める
第四十九候 寒露 初侯

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずバタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので
写真もあれば1枚添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

- 日** 日付(できれば時間と天気も)
 - 場** 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)
 - 参** 参加者 人数
 - 県** 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
 - 財**(公財)かながわトラスみどり財団、**看** 看護師
スタッフ 例 小田原市森林組合XX様
例 川崎市公園緑地協会・XX様
 - イ** インストラクター (○数字:期) **研**:研修枠
- 以下の本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者もお忘れなく!!)

◆ 座間市 下草刈り

- 日** 9月8日(土)9:30～12:00、晴れ
- 場** 座間市栗原 芹沢公園内
- 参** 男性17名 女性11名
- スタッフ** 座間市公園緑政課 課長他3名
- イ** 小野⑦、末原⑮

今年で18回となる自然保護思想啓発活動で応募された
熱心な方々により公園内の草刈りが行われた。今年度は
対象地のうち特に周遊路脇の除草に重点を置き、小鎌で
の草刈りが主体となった。連日の猛暑の為熱中症予防に
意を注ぎ無理のない作業時間と適宜の休憩に配慮した。
限られた時間であったが上部展望地から見下ろすとかなり
すっきりした景観となった。

作業終了後は鎌研ぎをして道具の返納を実施したのち
末原氏による「相模川・酒匂川水系の各ダム」に関してそ
の歴史や規模と県の水道事業の実体及び水源税に関す

る講話を、小野が身近な薬草9種についてサンプルを持
参し、特に古来から、周知の薬草であるセンブリ・ゲンシ
ョウコ・ドクダミについて薬効を説明した。

閉会式では参加者に参加証と記念品を贈呈して定刻に
終了した。身近に住んでいていつも思うことは当座間市が
豊富な公園に恵まれ、地下水での水道供給が85%以上
も有る事これらは本日参加された皆さんの自然を愛する思
いと、この様な催しを永年続けてこられた市当局の努力に
支えられている事に改めて敬意を払うものである。

(記 小野 幸広 ⑦)

◆ 横浜市立東中田小学校 間伐体験

- 日** 9月10日(月)10:00～12:00、曇り
- 場** 愛川ふれあいの村&相模原市緑区長竹継承分収林
- 参** 小学5年生 3クラス 生徒111名 教師等9名
- 財** 古舘様、内田様
- イ** L牧石⑭、小野⑦、渡辺⑦、鈴木⑧、小沢⑨、村井⑨
松山⑩、松本⑪、西出⑫、松石⑬、石垣⑮、塚野⑮

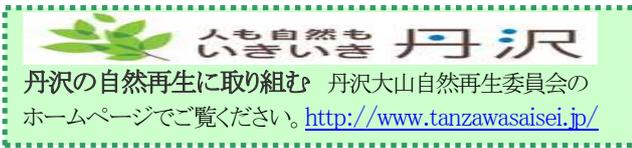
当日の天気予報は曇り時々雨、最高気温29℃、横浜市
立東中田小学校の皆様が到着された9時20分には愛川
ふれあいの村の上空は青空も覗き、心配していた雨の気
配も無くなり、安心して活動に臨みました。駐車場で始め
の会を実施後バス3台にインストラクターも分乗し長竹継承
分収に移動。到着後、班別に用具を受け取り、各班別に区
分けされた間伐場所に移動。10時30分～間伐活動開
始、間伐手順、注意事項の説明後、参加者は間伐ノコギリ
を持ち、交代で受け口と追い口を切りました。運動会の綱
引きをイメージインストラクターの合図で一斉にロープを
引くと、途中で枝掛した木も、迫力に負け、見事に倒れ、
歓声が上がりました。その後、枝払い、玉切りを行い11時
30分間伐終了。



12時15分長竹分収林を出発し12時25分愛川ふれあ
いの村に到着。参加された子供達より、ヒノキのいい香りが
良かった、木が倒れた時、感動した、大変楽しかった、ま

た実施したい、と多くの感想をいただきました。1時間という短い活動時間でしたが予定どおり無事終了いたしました。皆様お疲れ様でした。

(記 牧石 稔 ⑭)



◆ 横浜市立稲荷台小学校 間伐体験

- 日 9月12日(水)10:00~13:00、
 場 愛川ふれあいの村&相模原市緑区長竹継承分収林
 財 内田様
 参 小学5年生 2クラス 生徒52名 教師等8名
 引 L 鈴木⑧、小野⑦、斉藤⑧、内野⑨、牧石⑭、
 塚野⑮、松山⑩(応援)

今回も森林の周囲を眺めながら、なぜ間伐をするのかを説明しました。

直径15~20cm、高さ10~20mの檜(ヒノキ)を選木しました。

コースター切りの時、切った木の皮を綺麗に剥いて檜の香りや甘味を感じたりしました。はじめは鋸を水平に引くのが大変そうでしたが、少しずつ引いていくと、中の方に入っていくのがわかったようでした。

又、伐倒は木にロープはかけ、そのロープを生徒さんたちが引っ張り、ロープだけでは倒れないことが分かってから、鋸で受け口/追い口切りにはいりました。

お別れ会は班毎にしました。感想としては倒木した後空を見上げたら明るくなり間伐の意義が理解でき、楽しかった。お弁当を 森の中で食べられてよかった、先生方へのお土産もできうれいというのがありました。

(記 塚野 久美子 ⑮)

◆ 横浜市立北綱島小学校 林業体験

- 日 9月17日(月)10:00~12:30、 晴れ
 場 南足柄市 県立21世紀の森 風切水源林
 参 小学5年生 107名、教師等 10名、
 財 豊丸課長、古舘様
 引 L 西出⑫、渡部⑦、小沢⑨、村井⑨、木村⑭、
 牧石⑭、水野⑭、阿藤⑮、大高⑮、末原⑮、森⑮

交通事情で学校の到着が少し遅れましたが、予定通り、子供達に林業体験をしてもらいました。始めの会ではハチ

などに対する注意事項を伝達した後、ヘルメットなどの道具を正しく装着して、10班に別れて森の中に分け入りました。班毎に指定された場所で、これから行う作業の目的、手順などの説明を受けた後、除伐(植樹した以外の木を伐る)、枝打ち(下側の枝を切り落とす)、間伐(成長の悪い木や曲がった木を伐る)を行いました。湿度が高いので熱中症に注意して、休憩を取ったり、水分補給をしながら作業を行いました。現場までの移動距離が長いなどの条件が重なって、十分な時間が取れませんでした。昼なお暗き森が少し明るくなって、作業の成果を確認しました。暑い中、皆さん良く頑張りました。

(記 西出 健一 ⑫)

◆ 鎌倉市公園協会 30年度緑のレンジャーシニア第7回

- 日 9月22日(土)10:00~14:30、 曇り
 場 鎌倉市散在が池森林公園
 参 10名(女4名、男6名)
 スタッフ 鎌倉市公園協会 千田様、後藤様
 引 L 安部⑤、小沢⑨

猛暑から急に秋に入り台風の間合の晴れ日を探して本日は7回目の活動日と成りました。予定では6回目の活動で今回の活動の下見を兼ねている部分が有りましたが、あいにくの雨天の為、選木等はされて居りません。

後藤様の進行によりオリエンテーション開始、本日の安全作業を目標に、道具を装備し出発、2班に分かれ公園散策路に近いアオキの除伐からスタート、腰に付けた枝打ち鋸と選定バサミの実習です。次は公園内の枯れ枝等で高枝ノコギリ作業をするのに適当と思われる木を探し、高枝ノコギリの重量と切り口方向、カットした枝の落下等を考慮しながら作業するのは皆さんそれなりに苦労されていました。

次のメニューは間伐です、枯れた落葉樹の為安全に倒す方向を優先します、ロープ架けをして全員が力を合わせ間伐鋸を使用し合図と共にロープを引き、枝を切り、玉切りをして、所定の位置に置く作業で終了です。出発地点に戻り道具の整備をして昼食。

午後は初級ロープワークの説明と実践、レンジャーの方は本日の実習で習得できたかは次回の活動で試されるでしょう、終了時には秋の木漏れ日も差し込み皆さん笑顔で散会致しました。

(記 小沢 章男 ⑨)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。
 かながわの水循環の
 保全・再生をめざして
<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 三菱倉庫株式会社 森林再生パートナー森林活動

- 日 9月22日(土)10:00~14:00、曇り
- 場 足柄上郡山北町世附
- 参 32名
- 県 新谷様
- イ L上田⑩、松本⑪、西出⑫、真部⑬、坂井⑮

連休初日のため高速道路の渋滞で約1時間到着が遅延した。到着後オリエンテーションと体操の後看板前で全員の集合写真を撮って各活動の班分けを行い活動が始まった。終了の時間を変更しないで活動時間を1時間として作業にあたることとなった。

間伐は3班に分かれ各班1本の杉を伐採し若干予定時間を上回ったが最終処理まで終わらせることができた。間伐班のチームワークが良く作業はスムーズに終わることができた。

ヤマビルの活動に最適な条件の中での活動となったため、事前にヒル予防策を話し合い、各自対策を行ったため早期に発見することができ、吸血の被害はなかった。

自然観察はできるだけヤマビルの出現が出ないルートにできるように要望されたため右岸管理用道路を下流に向かって散策した。間伐など人工林の手入のこと、水源涵養のことなど話しながら散策をした。自然観察での1時間という時間はあまりにも短く予定のコースを半分も行くことができなかった。距離を歩くことができなかったが、参加者の質問に答えながらまた谷間から立ち上るガスを眺めながら丹沢湖周辺の初秋の雰囲気を味わう事ができたとの感想があった。

活動終了後は丹沢湖ロッジに場所を変えて、食事をしながら参加者と交流を持った。来年もまたこの活動に参加したいとの話が多く出ていました。ヒヤリハットは無く無事活動を終えることができました。

(記 上田 啓二 ⑩)

◆ 回胴式遊技機商業協同組合 下草刈り

- 日 9月29日(土)、雨
- 場 足柄上郡松田町 やどりき水源林
- 参 100名(大人80名、子ども20名)
- イ L森本⑤、永野⑥、斎藤⑧、

村井⑨、牧石⑭

県 鈴木副課長、高橋主事

パチンコ・パチスロの組合で、環境保全の一環としての社会貢献活動を展開。

元々、雨天決行の先で、無事に下刈り(除伐)を完了出来た。恒例の緑の募金に関しても、この場を借りて深謝を申しあげたい。



次回は、子ども(キッズ)を除伐とは別メニューでの森林活動の提案もしてみたいと思いました。

(当日の様子は、回胴式遊技機商業協同組合様のHPでも公開中。)

(記 森本 正信⑤)

◆ 県民参加の森林づくり 除伐

- 日 9月29日(土)8:30~13:30、雨
- 場 秦野市千村 頭高山
- 参 43名
- 財 内田様、大木様 看 青木様
- スタッフ 秦野市森林づくり課 黒田課長、千村共有地管理組合 石井会長
- イ L江上⑬、国分③、鈴木③、白畑⑦、久保⑧、松本⑪、大橋⑪、澤村⑫、山崎⑫、宇田川⑬、藤代⑬、岩田⑭水野⑭、大高⑮、妙泉⑮、大見⑮、角石⑮、佐々木⑮

台風24号は29日、「非常に強い」勢力で、沖縄を過ぎ関東を進路のほぼ真ん中とした。その中予定通り活動を行うと財団。前日は曇り。何とかかなりそうな気でしたが当日はやはり雨だった。その影響か当初の63名から43名の参加者数であった。

秦野市千村、標高303m頭高山の山頂周辺でスギ人工林、八重桜の植樹地に挟まれコナラ、クヌギの大木が散在するアオキの混じる広葉樹を中心とした雑木林が、活動場所であった。

小雨の中バスを降り、オリエンテーション。宇田川インストラクター(同期⑬)のリードでストレッチ体操を終え、10分ほど歩き現場についた。そこで参加者は5班に分かれ各

現場に向かった。

軽トラが通るくらいの道上の現場は、法面の傾斜が少しきつく、安全をとって法面から上の山頂側が作業現場となった。作業は地元の意向により直径8cm以下を、樹種にこだわらず除伐した。ツルがからみ、いわゆる藪状態なども混在していたが、参加者は手鋸、剪定バサミなどを用い頑張って切り倒し、整理した。雨中の作業であったが、1～5班の作業範囲の木々は伐倒され開通、互いに見通せるところまで進んだ。しかしながら雨は止まず、予定より30分ほど早めに引き揚げて、地元組合の汁物をご馳走になった。バス車中での反省会で、一般の初参加者には知識が増えた、楽しかった等の感想があり、インストラクターとして少しホッとした。

(記 江上 徹 ⑬)

◆ 日揮株式会社

森林整備(間伐、癒やし体験、水生生物観察)

日 9月29日(土)10:00～12:30、雨

場 足柄上郡松田町 やどりき水源林

参 日揮社員と家族 77名(大人68人、子供9人)

県 神奈川県水源環境保全課 6名

イ L 赤崎⑫、湯浅⑪、野牛⑧、有坂⑧、大塚⑪、古館⑬、
宮本④、山崎⑦、園田⑬、若林⑦、宮下⑩、草野⑧

雨天の活動であったが、77名もの国際色豊かなお客様をご案内でき、楽しかったとの感想をたくさん頂けた。各活動の様子は以下の通り。

【間伐】雨プログラムは丸太切りのコースター作り。軒下と雨除けのブルーシートの下で3カ所、馬3台で実施した。さすがにベテラン男性チームはあっという間に豪快に切り終えた。その後は家族チームや若い女性グループも周りの声援に励まされながら、慣れない鋸作業を楽しんだ。サンドペーパーでいねいに磨き上げ、マジックペンで「ヤドリキ」と書き記したコースターは、良い記念品になったようだ。(記 湯浅 ⑪)

【癒やし体験】テント内で張ったハンモックでのゆっくりとした時間を過ごし心地よかったとの声。また雨のなか緑輝くカエデとコケを触り色の美しさとコケの柔らかさを体験。中止になった森の中で寝るスポットを紹介すると「今度は晴れた日に来てぜひ体験したい」との感想もいただいた。雨のためとても短い時間での体験となってしまったが皆様ゆったりとした時間を過ごしていただけたことがとてもよかった。(記 若林 ⑦)

【自然観察】自然観察は、英語で説明するグループと日本語のグループに分けて活動。林道コースまでの往復とした。英語で説明するグループについて説明すると、まず、神奈川県酒匂川水系と相模川水系のボードで全体の説明をして、枕状溶岩で丹沢の起源を説明し、すぐ前のツノハシバミの実の面白さを示した。林道を登って行き、日本の固有種であるスギとヒノキの話をしてアスナロとの違いを示しながら、Aコース入口の終点まで来た。熊の標識で、つい最近、目撃情報があった話などを交えて帰路に着いた。(記 古館 ⑬)

【水生昆虫】雨天のため広場のテント内に折り畳み机を設置して水生生物コーナーを設け、参加者には水生生物を観察ケースにピックアップし観察してもらった。とくに子供たちは興味津々、極めて熱心にスプーンやピンセットを駆使してピックアップしていた。採集された生物はインストラクターがお手伝いして同定し、子供達には「やどりき沢で見つけた生きもの表」に○付けして持ち帰ってもらった。採集された水生生物はサワガニ、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、トンボのヤゴ、プラナリア、ヒラタドROMシなど、結構多様な生きものが採集・観察できた。大人の参加者たちには水生生物による水質指標、全能性幹細胞からなるプラナリアの話、サワガニの子育て、カゲロウとカワゲラの見分け方など、時にはルーペで覗いてもらいながらお話をした。(記 宮本 ④)

(記 赤崎 さほり ⑫)

◆ 県民参加の森林づくり活動(植栽)

日 10月6日(土)8:40～15:40、曇り

場 箱根町仙石原(町有林)

参 94名

財 古館様、大木様 看 青木様

スタッフ 箱根町観光課 遠藤様、山崎様

小田原市森林組合の皆様

イ L 菌田⑬、渡部⑦、有坂⑧、河西⑮、吉田⑪、
村井⑨、木村⑭、上田⑩、竹内⑮、小貝⑭、水口⑨、
松石⑬、野村⑭、末原⑮、小野⑮、大見⑮、
(研) 鶴井⑮、角石⑮、吉川⑮
(安全パトロール) 飯澤⑨、辻村⑨

箱根高原ホテルで作業後の入浴ができる人気の回とあって94名もの一般参加者を迎えることができた。バスで現地に到着した頃は小雨が降る生憎の天候であったが、準備体操を終えるころには曇りに回復。班毎に仙石原一湖

尻自然探勝道を20分ほど歩いて作業現場に移動し作業を開始した。

今回は5班集体で、急斜面を含むエリアにヤマザクラ、ヤマボウシ、イロハモミジ、ヒメシャラの4種800本を植栽した。急斜面での移動、および作業に難儀しつつも丁寧に植林を進めていくことができた。植栽が初めての参加者は全体の3割程度であったが、作業開始時にインストラクターから手ほどきを受け、楽しく、安全に作業を完了することができた。植林した場所はヒノキの人工林であったが、計画的にヒノキを伐採してヒノキと広葉樹の混交林となる予定で、将来の森の姿を思い描きながら現地を後にした。

今回の活動において負傷者、体調不良者は出ず、安全パトロールからも「大きな問題なく、整然と活動することができていた」とのコメントをいただくことができた。参加者は箱根高原ホテルへ移動し、温泉で汗を流しさっぱりとして帰路についた。

(記 河西 静夫 ⑮)

◆ 相模原市立津久井中央小学校 間伐体験

日 10月9日(火)9:30~13:00

場 相模原市立自然体験教室 やませみ

参 27名(5年生1クラス)

イ L松石⑬、佐藤⑤、小野⑦、有坂⑧

相模原市立津久井中央小学校が、やませみでの自然体験活動として間伐体験を行った。

一週間前に事前授業をしているので、子供たちが森のはたらきや間伐の必要性についてどの程度理解して、体験活動にどのように生かしてくれるか楽しみだった。

はじめの会で挨拶とインストラクター紹介、注意事項などを行い、その後、3班に分かれて森の入口に移動し、保護具と道具の装着などを指導し、間伐林の中へ入って作業開始です。インストラクターから詳しい作業の方法を説明し、スギ又はヒノキを伐倒する作業を始めました。

子供たちは、力いっぱい鋸を挽いて頑張りましたが、なかなか上手くいかないこともありました。次第に慣れて、上手に鋸を使えるようになっていきました。ほぼ予定通りの時間に、伐倒、枝払い、玉切り、コースター作りの作業を終わることが出来ました。(~11:40)

森の入口の広場で昼食をとってやませみに戻り、班ごとに道具の手入れを行い、グループミーティングでインストラクター講和と子供たちの感想などふりかえりを行って活動を終わりました。

子供たちの感想は、概ね“楽しかった、もっとやりたい”などの良い印象だった。森のはたらき、水源林を育てることに、少しでも理解が深まっていることを期待します。

ケガ、熱中症など安全面でも問題なく、無事に終了出来た。

(記 松石 藤夫 ⑬)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

エコプロ2018



<http://eco-pro.com/2018/>

“SDGs時代の環境と社会、そして未来へ”をテーマに、環境問題を中心に様々な社会で発生している問題や課題を解決するイベントとして展開していきます。様々な企画を実施するほか、持続可能な社会づくりのコンセプトのもと、インフラの老朽化対策やIoT、AIを活用したインテリジェント・インフラを出展対象とした新規展示会「社会インフラテック2018」を今年から初めて同時開催。

SDGsとは《Sustainable Development Goals》持続可能な開発目標

同時開催



ナノセルロース展 Nanocellulose Exhibition 2018 第3回
ナノセルロース展セミナー <Nanocellulose Exhibition Seminar>
受講申込受付中!

第3回ナノセルロース展セミナー 受講申込受付中!

<http://eco-pro.com/2018/conference/001282.html>

やどりき水源林ミニガイド

11月のトピックス

11/17のやどりきに行こう②の活動取材中に19年度成長の森①～⑤付近の風倒木の側でカモシカのお出迎えがありました。



(11/17 撮影 松本)

12月の水源林

やどりきは秋の終わりと冬のはじまりです。普段お目にかかれぬ動物たちが山の下にやってきます。

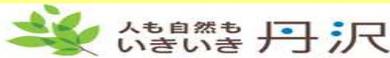
「森の案内」情報

(12月、1月、2月はお休みです)

- 実施時間: 毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時、1～2時間程度
- 集 合: 水源林入口ゲート前
- 内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ: (公財)かながわトラス みどり財団 TEL: 045-412-2255 FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
<http://ktm.or.jp/contents/event/127/yadorikif27.html>
- E-mail: midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。
バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35～40分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

2018年度丹沢大山自然再生活動報告



1.日時 平成30年12月15日(土)12～17時
2.会場 日本大学生物資源科学部1号館、2号館(藤沢市亀井野1866) 3.定員 300名
4.内容 平成30年日本森林学会賞を受賞した、田村淳主任研究員による基調講演「丹沢山地のブナ林の衰退と再生に関する一連の研究」のほか、「生き物再生」「水・土再生」「地域再生」の3つのテーマで研究・実践活動報告とポスターセッションなど
・申し込み: 入場無料 定員300名
ホームページ 丹沢大山自然再生委員会 → <http://www.tanzawasaisei.jp/>
Tel: 046-248-0323(内線299) Fax: 046-248-0737
※お名前、お電話番号、ご所属の団体名をお知らせください。添付資料: ポスター(PDF:198KB)
※当日は、取材・撮影等が可能(事前連絡不要)
・問合せ先
神奈川県自然環境保全センター
研究企画部長 山根 Tel.046-248-0323(内線202)
自然再生企画課長 足立 Tel.046-248-0323(内線203)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>
松本 保

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 笠原かずみ

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

Tel: 090-4137-9265

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先: 090-7962-3168

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】黒川 敏史

〒247-0066 鎌倉市山崎2273-1-515

Tel: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊はCCを】福島 正治(事務局長)

〒214-0006 川崎市多摩区菅仙谷3-1-1-204

Tel/Fax: 044-944-9423

Mail: fukky52000@yahoo.co.jp

原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧いただけます。
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当: 井出恒夫)

編集後記

★今年4月号より配信係を受け不安でしたが、みなさまに助けられ無事暮れを迎えることができました。また、編集に携わる方々の苦労や会の繋がりを担う会報の大事さが良く判った良い年でした。

(笠原)

★カマキリが降雪量を予想して卵を産むことは、ある程度信憑性があるようですが、この冬は、卵の位置からして雪は少なそうです。

(黒川)

★「信州駒ヶ根のリンゴ樹のオーナーになっています。先日収穫に行ってきました。数は例年並みでしたが表面にシミとキズが目立つものが多かったです。これも台風の影響のようです!

(阿藤)

★早や、師走。つい先日にお正月を迎えたと思っていたのに。月日が経つのがどんどん早くなるのは、生きてきた年月に反比例しているのかな?

(吉田)

★家内が両手首を骨折してしまい、その対応/フォローで編集時間が十分にとれず、誤字/脱字/誤文が多いと思います。ご容赦ください。



11/17 快晴日やどりきで美しい飛行機雲が現れました。

(松本)

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 松本 保

事務局: 福島正治

広報部: 藪田栄哉 吉田郁夫

黒川敏史 笠原かずみ

加藤優美 阿藤壽孝、竹内明彦

支援: 伊藤恭造 大原正志 江頭淑子



今年も松田山がイルミネーションで彩られる季節がやってきます!

色鮮やかな光に彩られた西平畑公園の煌めきと足柄平野の夜景は一見の価値あり

期間: 11/23(祝・金)～12/25(火)

点灯時間: 17～21時

場所: 松田町 西平畑公園

(松田山ハーブガーデン)

問合せ:

松田町観光協会 Tel.0465-85-3130

HP <http://letsgo-matsuda.com>

松田町観光課 Tel.0465-83-1228

ハーブ園 Tel.0465-85-1177